

発達障害とは

発達障害は、基本的に脳の機能的な問題が原因で生じているものです。発達障害の代表的なものとして、知的障害、広汎性発達障害(自閉症)、高機能広汎性発達障害(アスペルガー症候群・高機能自閉症)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、学習障害などがあります。発達障害といっても状態像は多様です。また、同じ診断

名でも、子どもの個性や、発達の状況や年齢、置かれた環境などによって目に見える症状は異なります。さらに、発達障害があっても、その人ごとの人がらがあります。障害があるということだけでひとくりにするのは間違いでしょう。一人一人のことをしっかり理解しようとするのが大切です。特に、自閉症を中核とする自閉症スペクトラムとも呼ばれる広汎性発達障害等の場合、その半数ほどは知的障害をもちません。そうした高機能では今まで一般的にとらえられていた障害というイメージとは一

見異なるように見えます。しかし、幼少時からの一貫した指導がないと二次的な問題が大きくなり、知的な能力は高くとも社会適応は難しくなることがあります。発達障害の人たちの場合、問題となるリスクを減らしていく意味でも、彼らのよりよい人生を確かなものにする意味でも、早期からの専門的な療育や発達支援が必要です。

JDDNET ホームページより

ひろがりネットのこれまで

・2006年(H18年)

5月 ネットワーク化に向けて
「軽度発達障害者支援情報交換会実行委員会」

・2007年(H19年)

6月 設立総会(ひろがりネット設立)

(おもな活動)

- ・年1回 総会
 - ・2010年から4月2日の世界自閉症啓発デーにイベントを開催。
(4月2日から4月8日は発達障害啓発週間)
 - ・毎年支援情報交換会を開催
- ### (支援情報交換会 実施録)
- 第1回「特別支援教育の可能性」
 - 第2回「テーマは「日常からできる就労支援」
 - 第3回「支援情報交換会と一体の講演会」
 - 第4回「発達障害児・者の未来を創る」
 - 第5回「働ける大人になるために」
 - 第6回「専門職のわざ・活用法」
 - 第7回「親の会」の情報交換
 - 第8回「グループホームで暮らす一をみんなで学び、考える」
 - 第9回「わらしべノートづくりを学ぶ」
 - 第10回「発達障害者が暮らす住まいを考える。～みんなで学び、考える～」

(参加会議)

- ・JDDネットエリア会員団体
- ・宮城県障害者施策推進協議会
- ・宮城県発達障害者支援センター連絡協議会、広域特別支援連絡協議会

それぞれの障害の特性

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

知的な遅れを伴うこともあります

自閉症

広汎性発達障害

アスペルガー症候群

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用(言語発達に比べて)

注意欠陥多動性障害 ADHD

- 不注意(集中できない)
- 多動・多弁(じっとしていられない)
- 衝動的に行動する(考えるよりも先に動く)

学習障害 LD

- 「読む」、「書く」、「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手